

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、新しい時代の学校施設の在り方を議論

1. 新しい時代の学びの姿

(1) 社会情勢の変化

⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

(2) 「令和の日本型学校教育」の姿

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現

(3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- 新学習指導要領の着実な実施
- 9年間を見通した義務教育の在り方
- GIGAスクール構想、ICTの活用
- 地域社会や関係機関等との連携・協働
- 少人数による指導体制の整備
- インクルーシブ教育システムの構築

2. 学校施設の課題

(1) 学校施設という実空間の価値を捉え直す

●ポストコロナ時代における学校施設の役割

⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、児童生徒の社会的・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識

⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要

●学びのスタイルの変容への対応

⇒ICTの活用により、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大

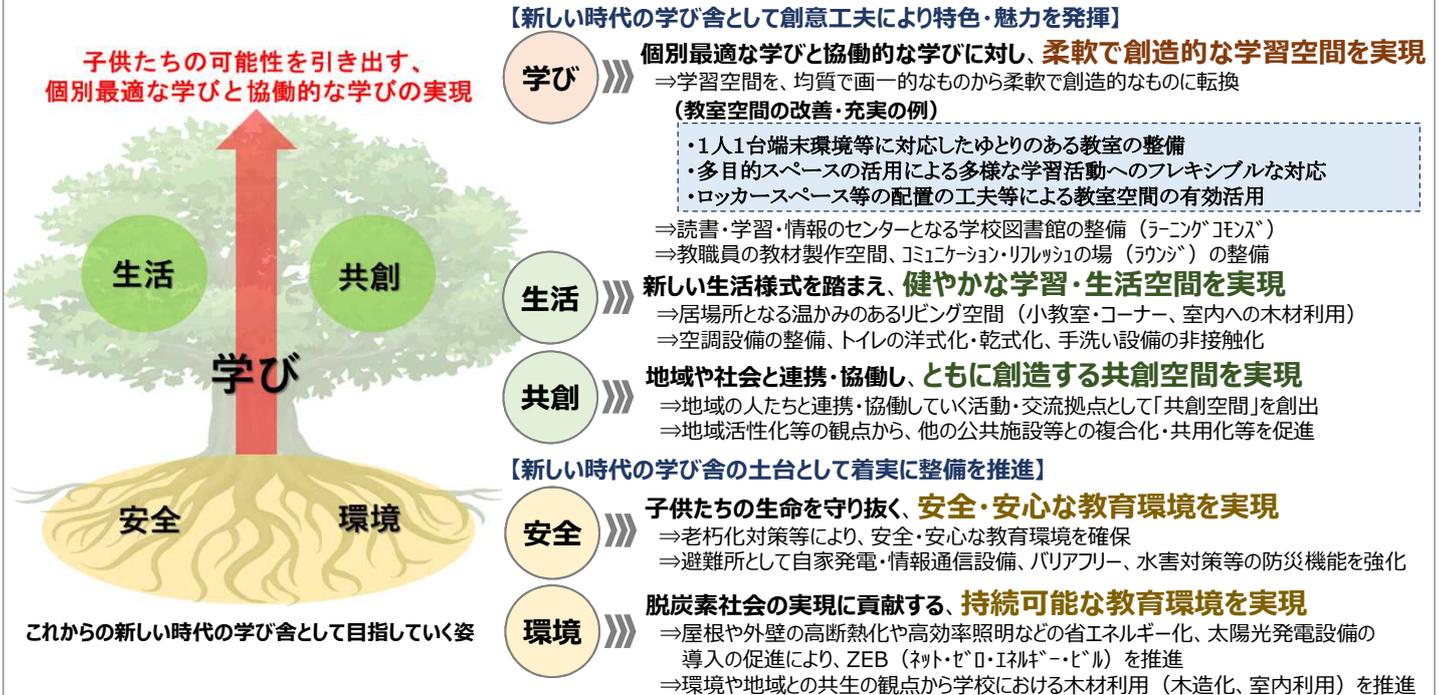
(2) 学校施設における現状と課題

- 機能面等：教室面積、多目的スペース、空調設備、トイレ等の整備状況等
- 安全面等：耐震対策・老朽化した施設の実態、防災機能の状況等
- マネジメント等：適正規模・適正配置の実態、複合化・集約化の状況等

3. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future



4. 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の推進方策

(1) 学校設置者における推進方策

●長寿命化改修を通じ、新しい時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策を一体的に推進

⇒安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びに対応していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進（教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備例）

- ・余裕教室活用型（3教室分を2学級分のゆとりのある空間として利用）
- ・改修＋一部増築型（改修と合わせた一部増築により不足するスペースを確保）
- ・家具配置工夫型（家具配置の工夫による教室のゆとり確保、教室と連続した空間の活用）
- ・特別教室コンバージョン型（教科に捉われない、創造的な学びの空間に転換）等

●首長部局と協働し、中長期視点から計画的・効率的な整備を推進

⇒まちづくり部局や財政部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
⇒中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共有化など）

●多様な整備手法等も活用し、施設整備と維持管理を着実に推進

⇒PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進

●学校関係者等の参画により、豊かな学びの環境整備を推進

⇒設計者と学校関係者が参画した施設づくりを促進（ポイント・ガール方式の導入促進等）

(2) 国としての推進方策

●学校スタンダードの提示

⇒具体的な学校施設の姿（ビジョン）を提示

●学校施設整備の優先度の可視化と計画的・効率的整備の促進

⇒短期的に対応すべきもの、中長期的なスパンで取り組むべきものを整理
⇒横断的な検討体制を構築した計画的・効率的な整備の推進

●学校施設整備推進のための財政支援制度の見直し・充実

⇒財政支援について、制度的な充実を図り、必要な予算を確保

●学校施設整備推進のためのプラットフォームの構築

⇒新しい学びに対応した学校施設整備を着実に推進するため、以下の機能を有するプラットフォームを構築

- ・具体的な実践につながる整備事例・ノウハウの蓄積・発信
- ・「学校建築アドバイザー」など専門家による相談体制の構築
- ・好事例を着実に横展開するための現場同士のネットワーク化

●先導的モデル研究を通じた新たな学校施設モデルの提示

⇒「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」の成果等を踏まえ、具体的・実践的な学校施設モデルを提示

●学校施設整備指針の改訂